

目標の進捗状況報告書

(2013年度・大学)

担当部局は ☆印の箇所を記入してください。

I. 評価項目・要素と担当部局

本シートの自己点検・評価を行う部局と項目・要素は次のとおりである。

対象部局	教職教育研究センター(教務機構)
大項目	4 教育研究組織
中項目	
小項目	4.0.1 大学の学部・学科・研究科・専攻および附置研究所・センター等の教育研究組織は、理念・目的に照らして適切なものである
要素	教育研究組織の編制原理 理念・目的との適合性 学術の進展や社会の要請との適合性 (KG1) 研究活動の状況
小項目	4.0.2 教育研究組織の適切性について、定期的に検証を行っているか。
要素	

II. 目標の進捗状況評価と進捗状況報告(2013.4.30現在の進捗状況報告)

《進捗状況評価》

本項目において、2009年度～2013年度の中期的な「目標」と「指標」を次のとおり設定し、毎年度進捗状況の自己評価を行っている。進捗状況評価はA、B、C、Dの4段階とし、2013年4月30日現在における目標の達成度評価(2013年度の達成に対してどこまで進んだかの評価)を行った。A、B、C、D評価は目安として次のようなものである。

- A : 目標実現のための計画や方策などを適切に実行し、目標を達成している。もしくはほぼ達成している。
- B : 目標実現のための計画や方策などを概ね適切に実行しているが、まだ目標は達成していない。
- C : 目標実現のための計画や方策などを実行しているが十分ではなく、目標は達成していない。達成にはまだしばらく時間がかかる。
- D : 目標実現のための計画や方策などを実行していない。当然目標は達成していない。

2009年度に設定した「目標」	左記目標の「指標」	進捗状況評価				
		2009	2010	2011	2012	2013
1. 本学における教員養成の望ましいあり方という観点から、教育学部との関係を明確化するとともに、同学部との連携を図る。	→教員養成を主たる目的とする、所謂目的学部としての教育学部と、一般学部の教員養成を担当する教職教育研究センターという棲み分けを明確にするとともに、実務面での連携が可能などところは連携を図る。	B	B	B	B	
2. 教職課程履修者数の急増と業務内容の多様化による過重負担を軽減するために、早急に上ヶ原キャンパスの教育研究組織の改善と神戸三田キャンパスの格差是正を図る。	→上ヶ原キャンパスに専任教員の増員。また神戸三田キャンパスに専任教員及び専任事務職員を配属することによる教育研究組織の充実。	D	D	D	D	
3. 文部科学省の実施視察に向けて、教職課程の全学的・組織的な指導体制を強化する。	→センター評議会等、教職に関する全学的協議体の活性化(本学における教員養成の望ましいあり方や教職教育研究センターと教育学部との関係等について全学的立場から検討する機会を設ける等)と、学長府との連携の強化(定期的な情報交換の場の設定等)による全学的・組織的指導体制の整備。	B	B	B	B	
2010年度以降に設定した「目標」	左記目標の「指標」					
	→					
	→					

《進捗状況》 ☆

目標の進捗状況について次のとおり簡単に説明する。

目標1	機構化などの組織再編の帰結が見通し難い状況ではあるが、文科省・教育委員会・社会福祉協議会等との窓口の一本化、情報の共有、免許取得希望者の多様なニーズへの対応など、教育学部との連携と棲み分けは密な連絡調整によって進んでいる。
目標2	神戸三田キャンパスの免許取得希望者および理数系教員の採用者数が増加する一方、教務機構化とKSCコモンズ設置に伴う事務体制再編には流動的な要素が多く、さらに専任教員の増員および配置が進んでいないため、目標達成が見通せない状況にある。
目標3	学長直属会議の開催によって学長府との連携は進んだ。他方、機構化によるセンター評議員会の機能などへの影響は見通せていない。
備考	